

血中アルブミン濃度 2.5g/dl 未満での胃瘻造設例の予後の指標の検討

松阪市民病院 研修医 1) 松阪市民病院 NST 2)

○田中彩華 1, 西脇亮 2, 春木祐司 2

I. 研究目的

現在胃瘻適応基準は生命予後が 30 日以上といわれ、血中アルブミン濃度が 2.5g/dl 未満は有意に 30 日以内の死亡が多いと報告されている。しかし、血中アルブミン濃度が 2.5g/dl に満たない方も多く、2.5g/dl 以上になるのに期間を要することも多い。

今回、血中アルブミン濃度が 2.5g/dl 未満の人の中で、胃瘻造設後予後が良い人の条件を明らかにする。

II. 研究方法

1. 対象

2015 年 1 月から 2024 年 9 月までに松阪市民病院で胃瘻を造設した人 276 人のうち、胃瘻造設時の血中アルブミン濃度が 2.5g/dl 未満の人 88 人。

2. 調査実施期間

2015 年 1 月 1 日～ 2024 年 9 月 30 日

3. 主な調査方法

胃瘻を造設する直前の血中アルブミン濃度と、入院してから胃瘻を造設するまでの間の血中アルブミン濃度の最低値の差(これをアルブミン差とする)、ACCI, PNI, GNRI を胃瘻造設後 30 日で死亡した人(早期死亡群)と生存した人の群(造設後生存群)で t 検定を用いて比較・解析をした。

III. 結果

当院でのアルブミン 2.5g/dl 未満患者の死亡は 88 例中 9 例(10.2%)で、同期間のアルブミン 2.5g/dl 以上 184 例中 7 例(3.8%)に比べ有意に多かった。

アルブミン 2.5g/dl 未満の 88 例を解析すると、アルブミン差は早期死亡群/造設後生存群で平均 0.03/0.26(g/dl)であった。2 群間の p 値は $0.0063 < 0.01$ であり有意差を認めた。

同様に ACCI は平均 8.33/7.10 ($p=0.0277 < 0.05$)。PNI は平均 22.93/28.06 ($p=0.0007 < 0.05$)。GNRI は平均 64.19/66.71 ($p=0.4009 > 0.05$) で ACCI と PNI で有意差を認めた。

IV. 結論

今回の研究結果は、血中アルブミン濃度が 2.5g/dl 未満であっても、栄養治療に反応して血中アルブミン濃度の上昇を認める例では胃瘻造設の 30 日生存率は有意に高くなることを示唆している。また、術前の PNI や ACCI も早期死亡の予測に有用と考えられた。今後、症例集積により、アルブミン 2.5g/dl 未満で胃瘻造設しても予後が見込まれる症例の予測が期待できると思われる。